

令和5年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472301074	事業の開始年月日	平成17年10月1日
		指定年月日	平成17年10月1日
法人名	有限会社 フェルシ		
事業所名	グループホームぼぼ箱根板橋		
所在地	(〒250-0034) 小田原市板橋933-3		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和5年11月29日	評価結果 市町村受理日	令和6年5月27日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの目の前に小田原市の郷土資料館があり、四季折々の花を楽しめる環境に立地しています。ホームでは日課として体操、散歩、歌のレクリエーション等を行い、ご利用者の心身の活性化を図っています。また、厨房職員を配置しており、季節を感じて頂ける手作りの食事を提供しています。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和6年1月10日	評価機関 評価決定日	令和6年5月20日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

**【事業所の概要】**  
当事業所は、箱根登山鉄道の箱根板橋駅から徒歩で10分ほどの閑静な住宅街に位置している。事業所の目前には、庭園が日本歴史公園100選に選定される松永記念館や、曹洞宗香林寺がある。近隣には、山縣有朋の別荘などの名所や寺院、公園などが点在しており、利用者の日々の散歩コースになっている。木造2階建ての建物の床や梁、柱は自然の木材を、壁は漆喰を用いて、落ち着いた佇まいの日本家屋となっている。法人は、地域でデイサービスや訪問介護、居宅介護支援事業所を運営している。

**【利用者の活性化を目指した環境づくり】**  
利用者の自主性を尊重し、最低限の手助けをすることに徹したケアをしている。利用者が生き生きと過ごすために、日々の生活にレクリエーションやスクワットなどを取り入れ、できるだけ体を動かす機会を多くしている。テレビをつけたままにせず、利用者が多方向に関心を持ち、能動的に過ごせる環境づくりをしている。

**【自然の素材を生かした食の提供】**  
法人の方針で調味料やだし汁にもこだわり、非常勤の調理担当職員が交代で勤務し、3食とも献立を作成して、食材の購入し、手作りの食事を提供している。5名いる調理員は各々得意な料理や味付けが異なるため、バラエティーに富んだメニュー構成となっている。毎日の食材は、近くのスーパーで購入しているが、魚は、管理者が業者に発注し、新鮮な旬のものを届けてもらっている。行事食には利用者の希望で、テイクアウトの寿司や、出来合いの花見弁当や雛祭りのちらし寿司等を取り入れることもあるが、季節感を大切にした手作りの汁物や小鉢を添えている。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームぼぼ箱根板橋
ユニット名	1階 かえで

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員に対して、朝の申し送り時、理念を管理者、職員で復唱する事で理解に向けた働きかけを行っている。	開所時に職員が話し合い理念を定めた。家庭にいる時の様に時間に縛られることなく、レクリエーションなどを通して、生き生きと安心して日々の生活送れる環境を提供するお手伝いする旨を理念に掲げている。開所時から理念を柱にしたケアを大切にして、毎朝申し送りで唱和をしてから、業務に就いている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染症が感染症5類型に緩和されたため、徐々にではあるが地域のお祭りなどの行事、日課としていた地域への散歩などを行えるよう支援している。外出等の地域へ出ていく活動も行えており一部のご利用者は認知症カフェへ参加されたりと地域の方との交流が出来つつある。	今年度は、地域活動も徐々に再開して地域のお祭りも復活し、祭りの日には、以前の様に御神輿が立ち寄って、利用者が喜んで出迎えた。「早川ふれあいの村」で開催される地域包括支援センター主催の「認知症カフェ」や小田原市グループホーム連絡会主催の認知症カフェには数名ずつの利用者が職員とともに参加をしている。また、毎月11日は地域の方を対象にした「介護相談」を受け付けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月11日に地域の方へ向けた介護相談日を設けていたが、コロナウイルス感染症が完全解除ではないため、昨年同様に中止としている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染症が完全解除ではないため、昨年地域の方やご家族を招いての、運営推進会議の開催中止している。昨年同様に書面で行っている。	コロナ禍以降、運営推進会議は書面開催として、報告書をメンバーの家族、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、建物オーナー、元自治会副会長に送っている。メンバーには意見や要望などを募っているが、労いの言葉がほとんどで、特段の意見はない。今後は、次年度に向けて、対面開催の復活を市や法人とも協議する意向を持っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	申請代行や生活保護受給者の手続き等の困りごとを相談する機会を設けている。	小田原市の高齢介護課や生活支援課とは、できる限り、顔を合わせて話をする機会を持つようにしているが、コロナ禍以降、電話連絡となっている。事業所の職員が小田原市グループホーム連絡会の理事を引き受けていることから月1回の会合に参加をしており、その席で市の担当職員と話をする機会がある。管理者も年2回の総会に参加をして、市の担当者と顔の見える関係作りをしている。県のBCPのリモート研修に参加をしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	言葉によるスピーチロックやご入居者の行動の制止せず、安全の範囲でご自身の思うように動くことが出来るよう全職員が力を入れて取り組んでいる。 また、職員の言動や声の大きさ等も拘束になり得る場合もあるため、職員は意識的に言葉掛けを行っている。 玄関は必要により施錠をしているが、ユニット入口常時開錠し、拘束を防いでいる。	「身体拘束等の適正化」委員会は、3か月ごとに管理者、各ユニットの主任が参加をして行なっている。また年2回、全職員対象に研修を実施して、拘束をしないケアの実践に努めている。今年度も県のチェックリストを使い、言葉による抑制などを職員自らが点検をして、日々のケアの中で当てはまるような言動や動作などが無いかを確認している。向精神薬を多く服用していた方が、入居後、生活が安定したことで医師の指導で減薬に取り組んだ事例がある。	身体拘束等の適正化委員会は、毎回固定のメンバーで実施して報告書を作成していますが、時にはメンバーを変えたり、職員会議などを利用して幅広い職員の声を聞く機会をもたれてはいかがでしょうか。また併せて、身体拘束等の適正化の指針の整備も期待します。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が虐待行為は全体に行わないようご入居者の支援に携わっている。カンファレンス等で虐待防止に向けた勉強会を行ったり、原因不明のアザ発見時にシートを活用し全職員で共有。原因の解明とアザが出来ないよう、虐待防止を含め取り組んでいる。	「虐待防止委員会」は、「身体拘束等の適正化委員会」と同時開催している。高齢者虐待防止指針を作成して、職員は虐待防止や権利擁護などについて学んでいる。研修では、自己点検シートを使い、利用者の小さな傷やアザなどの原因等を確認している。職員のストレスを溜めないためには、人が足りないがゆえに起こるストレスを防止するように、人員配置に気を配っている。厨房に非常勤の専属職員を配置していることで、ケアをする職員の負担軽減に繋がっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員、管理者は権利擁護に関する研修に参加、またはカンファレンス等で勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、変更等が生じた場合は、その都度丁寧に説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時に、ご入居者の様子を伝えまた、ご家族からのグループホームでの生活のご意向を伺うようにしている。 ご家族からの要望は、カンファレンス等で職員に伝えたり、業務連絡に記載、サービス計画に反映させ、全職員共有とサービス提供を行っている。	家族の要望は運営推進会議の報告書の意見欄や、面会時に聞いている。また電話やメールでも聞いているが、利用者個別の要望や、運営面の要望は届いていない。コロナ禍以降、面会を制限してきたが、コロナの5類移行を機に、家族から面接の緩和や外出時の外食の許可を求める声もあったが、12月に事業所でコロナ感染があり、慎重に対応している。毎月、請求書に写真入りの手紙を添えて、家族に利用者の近況を伝えている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各階の職員全員で、一ヶ月に一度カンファレンスを開催している。その時に職員間での意見交換や各種提案を行った後、現場での勤務に反映をさせている。	ユニットごとに理念の捉え方や、職員の考え方に開きが出てきた為、働き方の統一を図るため、相互に応援が可能な職員体制の構築を目指し、1階と2階のシフトチェンジを行った。職員の意見や提案は、管理者が日々の会話やユニットごとの月1回のカンファレンス、朝の申し送り、個人面談等で聞いて、把握している。居室担当制や、物品購入、レクリエーションなどは担当制にし、職員の意見や提案を運営に生かすようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の勤務状況を把握し、賞与査定時に反映させている。 また、経験年数に応じたステップアップのための研修、小田原市グループホーム小規模多機能連絡会主催の研修会に参加させている。	職員は年2回、キャリアシートで自己評価をして管理者と面談をしている。管理者は、職員の勤務状況等を法人に報告して、人事考課に繋げている。法人としてハラスメント研修を行い、ハラスメントのない、常に働きやすい職場環境に配慮している。オンオフの切り替えや、気分転換を図る目的で、職員休憩室を整備している。産休・育休制度を導入し、現在、産休を取得した職員が復帰している。定年は70歳まで延長された。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で行っている研修会や、研修会への参加、小田原市グループホーム小規模多機能連絡会主催の研修会当施設の主任が主催する勉強会等を通じて、知識や技術獲得に向けた取り組みを行っている。	介護福祉士・介護支援専門員に資格手当を支給している。初任者研修等の資格取得に関する研修は勤務扱い、資格取得者には受講料、交通費の支給がある。管理者は職員の経験年数に応じたステップアップを考慮して、外部研修の受講を推奨している。受講は、勤務扱いとし、受講料は法人が負担している。今年度は介護計画作成の研修会に6名の職員が参加をしている。新人のOJT研修は主任が担い、2ヶ月間実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターが主催する、認知症カフェへの参加、小田原市グループホーム小規模多機能連絡会が主催するイベント等を通じ、同業者や地域の方との交流を行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居者の様子や表情、言動を注意深くみながら、本人の要望や訴えに耳を傾け、話を聞き共感することで、安心して生活がおくれるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居が決まった段階で、現在の本人の状況を確認し、ご家族の不安感や困りごと、要望を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居前に居宅サービス等の担当ケアマネジャーに連絡し、状況を確認している。また、入居開始時に、ご家族等に、これまで生活の様子や、支援していく上での重要なポイント等をお聞きしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の会話の中から、昔の様子や長年の知識や技術をご利用者から教わっている。また、職員とご入居者が共同で何かを行ったり、ご入居者同士が協力し合うことで、一緒に生活する者同士の関係を構築できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等にご本人の日々の生活状況を説明し、ご本人の望む暮らしをどのように提供できるか、ご家族にできること、施設で出来ることを一緒に話し合えるようにしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方がいつでも面会に来られるよう、施設をオープンにしているが、新型コロナウイルス感染症が完全緩和はされていないため、現在は玄関での面会とさせていたでている。なお、時間は10分間。来所持の検温と入居者と家族双方共に、マスク着用での面会とさせていたでている。 また、手紙や電話の代行を行い、馴染みの関係を継続しやすいよう配慮している。	コロナ禍以降、面会は家族に限定している。家族と墓参りなどで外出される方もいる。近隣から入居されている方も多く、周辺の景色が馴染みとなっている。また近くにある系列のデイサービスで一緒だった方同士で、当時の話をすることもある。入居歴の長い方は、定期的に訪問する医師や理美容師などが馴染みの関係になっている。入居前から化粧をしていた方には、家族が口紅やファンデーションの購入を支援している。事業所が購読している新聞を毎日読む方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で行うレクリエーションはもとより、洗濯物たたみなどの作業等の生活リハビリを中心に支援を行っている。 また、新聞折りやウェス切り等、一人で行うことが難しい作業に関しては、入居者皆で協力・分担することで協力し合える環境作りにも努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご家族から相談があったときには、守秘義務に配慮しながら支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時やケアプラン更新時等に、ご家族からのグループホームでの生活の意向を聞いている。また、日常の関わりの中でもご本人の思いを把握すると共に可能な範囲で、本人の意向や思いに沿って支援を行っている。	利用者の要望は、ケアプランの更新時や、職員が利用者と1対1になった機会に聞くようにしている。聞き取った意向で実現可能なことは、家族にお願いをしている。利用者が「焼き芋を食べたい」という時は、おやつなどに取り入れ、思いを実現させている。重度化して発語が困難になったり、意思の伝達が難しくなっている方の意向の把握は、表情の変化や仕草で把握している。また職員はできる限り話しかけ、その方が孤独感を感じ無いように配慮している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、生活歴について聞き取りをし、現在の生活状況等の確認も起こなうと共に、これまでの生活で行ってきた事は、可能な限り継続できるよう支援と共に、それに沿ったサービス計画を策定している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体操、散歩、家事活動等を日課として行っている。一人ひとりの趣味などの把握に努め、また、一人ひとりの身体状態や有する力の把握に努め、自分の事は、出来る限り自身で行うよう支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のカンファレンスを全職員参加で行っている。ご入居者のケアで気が付いたことを話し合い、時にはご家族との話し合いを持ちながら、現状に即したサービス計画を作成している。 また、独自で作成したアセスメント用紙を活用し、計画の継続、または変更の必要性を精査し、計画を作成している。	介護計画の作成は、初めに利用者、家族の希望を聞いている。アセスメントとモニタリングを基に、医療関係者の意見を反映させて、月1回のケアカンファレンスで意見交換し、作成している。新規の介護計画は、入居前の様子を家族や担当ケアマネジャーから聞き取って作成し、1ヶ月様子を見て、見直しや修正をしている。通常は、短期目標6ヶ月、長期目標1年としている。「サービス計画チェック表」に介護計画のサービス内容の実施の有無を毎日記載して、モニタリングに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録簿にケアの実施、工夫などを記録し、職員間で共有を行っている。 得た情報を介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人グループのマンパワーを活用し、柔軟な支援体制を確立している。 また、グループホームでの外出時に、他事業所から車両を貸していただいたり、イベント開催時にはお手伝い募り、活動を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は、ボランティアを活用していたが、現在、コロナウイルス感染症の流行に伴い、来園をお断りしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族対応で、かかりつけ医に通院されている。	利用者全員が24時間オンコール体制の協力医療機関の訪問診療を月2回受診している。診療情報は「訪問診療議事録」で共有している。従前からかかっている眼科等の専門医には、家族対応で通院している。衛生士が月1回口腔ケアを行い、必要な治療がある場合は歯科医師に繋いでいる。非常勤の看護師2名が交代で週3回半日勤務して、利用者の健康管理や医師との連携に努めている。訪問マッサージを受けている方もいる。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日常で気が付いた情報を看護師に伝え相談し助言をもらっている。 看護職員は入居者に対し、必要に応じて診察を受けられるよう支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、介護サマリーを作成し、ご本人の状態について情報提供を行っている。 急性期が過ぎた段階で速やかに退院が出来るよう、医療機関と連携を図っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、看取りについての説明を行っている。 また、重症化した場合や終末期の在り方については、訪問診療医、ご家族、職員とで情報を共有し、支援にあたっている。	入居時に、重要事項説明書の「重度化と看取り対応」について、事業所の方針を説明し、同意を得ている。医師が終末期と判断した時点で、医師も同席をして、家族に「看取り介護指針」「看取り介護計画」を説明している。事業所での看取りを希望された場合は、「看取り介護についての同意書」を得て看取り介護に入っている。開所当初から事業所での看取りを希望される家族が多い。看取り後には、他の利用者も自然にお見送りをして故人を忍んでいる。家族へはグリーンケアを行っている。職員はケアカンファレンスで振り返りを行っている。職員は、年1回の看取り研修を受講している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生時に備えて、緊急対応マニュアルが作成されている。緊急時はそれを元に対応。 また、応急時の対応についても行っている。			
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回、防災訓練を行っている。 消防署への通報訓練、火災避難誘導訓練、消火訓練を実施した。 また、法人全体でBCPを作成した。有事の時にはそれに沿って、業務の継続と、入居者の生活の継続支援を行うことになっている。	BCP(事業継続計画)は令和4年から法人が策定し、令和6年度の実施に向け、法人の各部署で話し合っている。今年度は、グループホームとして7月に日中想定避難訓練、11月には水消火器を使用した消火訓練を行っている。1月中には、夜間想定避難訓練を実施する予定としている。地域の避難訓練への参加はコロナ禍以降中止している。災害用の備蓄は、飲料水の他、米や調味料をローリングストックしている。期限切れの食品もあるため早急に入れ替えを予定している。防災用備品は、熱源のカセットコンロや、寒さ対策の全員分の保温のアルミシートに加え、11月に自家発電装置が整備された。	広域避難場所が高台にあり、高齢者が避難することが現実的ではないため、系列のデイサービスや、訪問介護を利用している独居の方等の災害時の受け入れなど検討されることを期待します。また、減災対策として事業所内の家具や電気製品等の転倒防止策、棚の上の物、調理器具等の落下防止など、今一度見直され、安全対策を講じることを期待します。BCPに沿った訓練の実施に向け、地域との協力関係の構築について、運営推進会議で働きかけることを提案します。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、トイレ、入浴介助時は、プライバシーに配慮するとともに極力肌の露出等がされないようにしながら支援を行っている。	利用者の人格の尊重と権利擁護について、職員はプライバシー保護の研修を毎年受講している。職員が利用者の居室に入る際には、フロアにいる利用者の許可を得ている。居室は内側から施錠ができ、利用者はプライバシーを確保できる。利用者の呼称は苗字にさん付けとし、利用者の中で職員が話をする際は、イニシャルとしている。トイレ誘導時の小声での声掛けのほか、肌の手当等では、極力肌が露出をしないように配慮をしている。タブレットやパソコンはパスワード管理をして情報漏洩防止の対策を講じている。	管理者が家族との連絡やメールに使用している個人の携帯電話を、個人情報の保護の観点から社用携帯にされる事を期待します。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶の時間やおやつなどに、入居者の方々からグループホームでの生活の意向をお聞きしている。その中で出来ることを提案しながら、入居者が選び、決定できるように働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ルーティンとしての日課はある程度決まっているが、基本はご本人のペースで行っている。また、皆が同じペースで動く事は難しいこともあるため、ルーティンの時間をずらす等、柔軟に対応を行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧水や乳液など希望された時は必要に応じて購入している。 また、入居者の希望に合わせて訪問理容室を提供している。 普段の洋服に関しても、着替えの際に、自身で選んだり、決定する事が出来るよう支援している。 男性の入居者も居られるが、毎日の髭剃り等の整容に対しても支援をしている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お正月、花見などその時期にしか召し上がれない旬な食材を提供している。 また、行事やイベントを通して、入居者と職員が、調理や下準備、片づけを一緒に行えるよう取り組んでいる。	食事は3食とも、献立作成、食材購入、調理までを調理担当の非常勤5名が交代で担っている。職員各々で味付けや得意な料理も異なるので、バラエティー豊富なメニューとなり、利用者からも好評を得ている。土曜日の朝食はパンの日とし、利用者は好みのジャムなどを楽しみにしている。現在、外食ができないため、テイクアウトの寿司の他、おやつレクリエーションとして、焼きそばやパンケーキを職員と一緒に作って楽しんでいる。誕生日はケーキでお祝いしたり、12月にはプレゼントを用意してクリスマス会を実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養バランスを考慮して提供している。水分は食事以外にも提供し1日の水分量を確保している。 水分の摂取が難しい方には、お好きな物を提供したり、召し上がり易いよう、お茶等でゼリーを作り提供したりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。自身で行った後、必要に応じて職員が口腔内のチェックと磨き仕上げを行っている。また、1回/月、歯科衛生士による口腔指導を受けている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	記録システムで排泄の管理を行っている。一人ひとりに声掛けを行い、自立に向けた支援を行っている。	自立でトイレで排泄をする方が3名いる。いずれの方もリハビリパンツにパッドを使用している。大半の利用者に対して、タブレットの排泄記録で定時誘導したり、仕草等で職員が察知して随時トイレ誘導している。日中はトイレでの排泄を基本としているが、夜間は睡眠を優先し、個々の事情に配慮した無理のない支援をしている。昼夜ポータブルトイレを使用する方や、夜間だけ全介助でオムツを使用している方もいる。トイレの清掃、消毒は夜勤の職員が行っているが、汚れた際は、都度清掃して清潔の保持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前、午後に体操を行い散歩を日課としている。食事面では、食物繊維の摂取にも心がけている。排泄の状態把握にも努めている。また、便秘傾向にある方に対し、体操時に腹圧を意識した運動を取り入れ、排便促しに取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴のスケジュールはあるが、その日の体調や希望に合わせて、個別対応を心がけている。	入浴は週2回、午前中に3名が入っているが、その時々利用者の体調や気分に合わせて個別対応をすることもある。午後入浴希望にもできるだけ希望に応じている。入浴を好まない方には無理強いをせず時間や声掛けの仕方や対応者を変え対応している。同性介助も希望があれば対応している。利用者は季節の柚子湯や職員との会話を楽しみながら入浴している。浴槽の湯や足ふきマットも一人ずつ交換している。脱衣場に温風ヒーターを設置してヒートショックに備えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	必要な方に対し、昼食後の休息への声掛けを行っている。 日中の適度な運動と適度な疲労を通して、安心して気持ちよく安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書を確認すると共に、独自に作成した薬情報表を活用することで、全職員が服薬内容の理解に努めている。 月初めに体重・身長測定を行い、体重の変化や異変について確認できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の家事などを、一人ひとりの状態に合わせて、皆で行っている。 一人ひとりが役割を持ち、楽しみながら生活ができるような支援を心がけている。 また、時々施設外に出ていくことで、気分転換や楽しみがもてるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩に出かけられるよう、散歩を日課としている。また、定期的な外出レクリエーションを実施。地域へ出かけられよう取り組んでいる。	事業所周辺は、比較的車の往来が少ない住宅地で近隣には歴史的な建造物などもあり、天気の良い日には、車いすの方も一緒に短時間ではあるが、散歩に出ている。事業所の目の前の松永記念館や香林寺の庭は、恰好の散歩コースとなっている。利用者は、初詣や初春の梅、春の桜など四季折々の季節の変化を楽しんでいる。デイサービスの車を使ってドライブレクとして小田原フラワーガーデンや小田原漁港に出かけている。3ヶ月毎に小田原市グループホーム連絡会が主催している認知症カフェに利用者数名ずつが参加している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、金銭管理は施設で行っている。ある程度の自己管理が可能な場合は、少額の管理は行って頂いている。以前は、購入希望があれば一緒に買い物に出かけていたが、現在、コロナウイルス感染症の影響で、一緒に買い物には行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	郵送された郵便物の代読を行っている。携帯電話を持参されている方は現時点ではないが、今後持参され、かけ方が分からないと依頼があった時は、通話ができるよう支援する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然の木材を利用した建物で、木の香りや温もりが心地よい環境になっている。 玄関には季節の造花を飾り、家庭的な雰囲気になるよう心がけている。 また、こまめに換気を行うことで、新鮮な空気を取りれる事で心地よく過ごせるように支援している。	ベランダに面した大きな掃出し窓と腰高窓が有るリビングは、採光もよく明るい。利用者はベランダで外気浴や花の水やりを楽しむこともある。窓からは、季節ごとに松永記念館の梅や桜、紅葉などを楽しむことができる。リビングの床や天井、柱は自然の木材、壁は漆喰で、木の香りや温もりが感じられる。また床暖房が施され、居心地の良い共用空間になっている。温・湿度は、職員が適宜床暖房やエアコンを調整して管理している。また時間を決めて換気を行っている。共用空間の清掃は早番職員が行い、利用者もモップ掛けや手すり拭きなどを手伝っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファやテーブルが設置しており、入居者同士がいつでも交流できるようになっている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物品を入居時にお持ちいただけるよう、パンフレットに明記し、慣れ親しんだ居住空間に近づけるようにしている。 また、茶碗やマグカップ等、新しくする時は、入居者自身で選んでいただき、好みの物を使えるようにしている。	居室には、エアコン、ベッド、照明器具、防災カーテンが備え付けられている。利用者は自宅で愛用していたチェストや、椅子等の家具、時計、仏壇、カレンダー、家族の写真などを持ち込んで、自宅のようにくつろげる居住空間にしている。以前の居住者が置いて行った家具類を利用している方もいる。茶碗、マグカップ等を新しく購入する際は、利用者に好みの物を選んでもらっている。ほとんどの利用者が昼寝と就寝時は居室に戻るが、日中は、リビングで居て、会話やレクリエーションを楽しみながら過ごしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、廊下、風呂場等に手すりを配置し、自立を促すよう配慮している。 入居者によっては自室の場所が分からなくなってしまう方がいる為、その方の自室扉には氏名を書いた紙を貼り、分かりやすくしている。		

事業所名	グループホームぼぼ箱根板橋
ユニット名	2F さくら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	0	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	0	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	0	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	0	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	0	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	0	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：28)	0	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	0	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	0	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	0	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	0	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	0	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	0	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員に対して、朝の申し送り時、理念を管理者、職員で復唱する事で理解に向けた働きかけを行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域のお祭りや防災訓練に参加しています。今年は数年ぶりにお祭りが行われお祭りに参加しました。お神輿も立ち寄り入居者様は、とても喜びました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談日を毎月11日に行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年に引き続きコロナウイルス感染症の為、書面での運営推進会議を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	申請代行や生活保護受給者の手続きの際、困り事等相談する機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	3か月に一度「身体拘束適正委員会」を開催し身体拘束廃止に向けての取り組みを行っている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待行為を否定し人権を尊重している。身体拘束の廃止に向けた研修を職員に取り組んでもらっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員、管理者は権利擁護についての研修に参加している。また、カンファレンス等で勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、変更等が生じた場合は、その都度丁寧に説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時、ご本人の様子等を伝えています。ご家族からの意見や要望を伺うようにしている。ご家族からの意見等は、カンファレンス時職員に伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、毎月のカンファレンスに出席し、職員と意見交換を交わしている。また個々に意見を聞く機会を設けている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の勤務状態を把握し、賞与査定時に反映させている。また経験年数に応じ、ステップアップのための研修に参加させている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や資格取得のため勤務しながら研修が受けられるよう便宜を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	小田原市グループホーム連絡会に参加。会員施設のケアスタッフが研修に参加し易い環境を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望者には、まず施設見学をして頂き、入居に関して不安な事、困り事等を丁寧に伺い安心して頂ける関係づくりに務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居が決まった段階で、現在の本人の状況を確認しご家族の不安や困り事、要望を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に在宅サービスをプランニングしていたケアマネジャーに連絡し、状況を確認している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の会話の中から、昔の風習などを利用者から教わり、一緒に生活する者同士の関係を構築している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等にご本人の日々の状況を説明し、ご本人の望む暮らしをどの様に、提供出来るか、ご家族に出来る事、施設で出来る事を一緒に話し合えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方がいつでも面会に来られるよう、施設をオープンにしていたが、今はコロナウイルス感染症の拡大を懸念し、極一部の面会のみ行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で行うレクリエーションや洗濯物畳みなどの作業を中心に日中は出来るだけリビングで過ごして頂けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もしご家族から相談があった時には、守秘義務に配慮しながら対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時やケアプランの更新時等にご家族やご本人から意見や希望を聞いている。また日常の関わりの中でもご本人の思いを把握するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、生活歴について聞き取りをし、現在の生活状況等の確認も行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体操、外気浴等を日課として行っている。1人1人の趣味などの把握に努め、また、一人ひとりの心身状態や有する力の把握に努めている。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス時、ご利用者のケアで気付いた事を話し合い、サービス計画に繋げている。また、サービス計画チェック表で毎日モニタリングを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録簿にケアの実施、工夫などを記録し、職員間で情報共有を行っている。得た情報を介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内グループのマンパワーを活用し、柔軟な支援体制を確立している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを活用し、懐かしい曲を鑑賞したり、唄ったりしながら、日々の暮らしを楽しまれている。今年もコロナの為、ボランティアの来園はお断りしている。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在はかかりつけ医にかかっている利用者はいません。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日常で気付いた情報を看護師に伝え相談している。看護職員は利用者に対し状況に応じて診察を受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、介護サマリーを作成し、ご本人の状態について情報提供している。急性期が過ぎた段階で速やかに退院できるように、医療機関と連携を取っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、看取りについての説明を行っている。また、重度化した場合や終末期の在り方については、訪問診療医、ご家族、職員とで情報を共有し、支援にあたっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご入居者の急変や事故発生に備えて、緊急時マニュアルが作成されている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回、防災訓練を行っている。今年は消防署に通報する訓練を行い、火災避難訓練を実施した。11月も火災避難訓練を実施し水の消火器を使用し消火訓練を行った。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、トイレ、入浴介助はプライバシーに配慮しながら行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶の時間などに、ご利用者方々から希望を聞いている。その中から出来る事を提案しながら、ご利用者が決定出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ルーティンとしての日課はある程度決まっているが、ご本人のペースで行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧水や乳液など希望された時は、要望に応じて購入している。また、ご利用者の希望に併せて訪問理美容を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お正月、花見などその時期にしか召し上がれない旬な食材を提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養バランスを考慮し提供している。水分は食事以外でも提供し一日の水分量を確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。自身で行った後、必要に応じて職員が口腔内のチェックを行っている。また、1回/月、歯科衛生士による口腔指導を受けている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で排泄の管理を行っている。一人ひとりに声掛けを行い、自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前、午後に体操を行う。食事面では、食物繊維の摂取にも心がけている。排泄状態の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴のスケジュールはあるが、その日の体調や希望に合わせて個別対応に心がけている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後の休息への声掛けを行っている。日中の適度な運動により安心して気持ちよく安眠出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書を確認し理解している。月初めに体重測定を行い、体重の変化や異変について確認できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の家事などを、一人ひとりの状態に合わせて皆で行っている。一人ひとりが役割を持ち、楽しみながら生活出来るような支援を心がけている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩に出かけられるよう心掛けています。家族との外出はコロナが落ちつくまでは、中止しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、金銭管理は施設で行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	届いた郵便物の代読を行っている。また、携帯電話を持参されている利用者に電話をかけたいとの希望がある時はお手伝いしているが今現在所有者はいません。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然の木材を利用した建物で木の香りや温もりが心地よい環境になっている。玄関や洗面台に季節の草花を飾り、家庭的な雰囲気になるように心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファやテーブルが置いてあり、いつでも交流出来るようになっている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた品物を入所時にお持ち頂けるように、パンフレットに明記し、慣れ親しんだ居住空間に近づけるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、廊下、風呂場等に手すりを配置し、自立を促すよう配慮している。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 ツルギのふかほほ福祉相談所

作成日 令和6年5月21日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	5-6	身体拘束適正化・虐待防止等への取組に委員会 全職員に周知出報していない。	全職員に身体拘束、虐待について深く理解しその重要性を認識して取り組むことを目指す。	・予め委員会に諮らるべき課題を役員に決めること、マニュアル等を利用し全職員に課題について議論する ・身体拘束虐待の研修を行う	令和6年6月1日 S 令和6年11月30日
2	7	運営に関する利用者家族等の意見の反映	・家族に利用者の生活を見学頂き、家族に安心して頂く。	・運営推進会議を開催しコロナ以外に床し会議を施設内で開催する。 ・面会を緩和。	令和6年6月1日 S 令和6年11月30日
3	6	災害対策	自然災害に備え地域住民と連携し防災訓練の実施。	・施設内での避難訓練は地域住民参加に頂く。 ・百年行の地域、地域の防災訓練への利用者参加も行う。	令和6年6月1日 S 令和6年11月30日
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。  
注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。